

第14回 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会

Webサイト改修について



2019年9月27日

東京電力ホールディングス株式会社

処理水ポータルサイトの改修について

- 処理水ポータルサイト（日英）に「処理水の保管」カテゴリを追加しリニューアル
- 追加ページには「タンクと敷地利用について」や「敷地利用の検討について」等を掲載
- 英語サイトでは、一部リンク先の見直しを図ることで利便性を向上

【新設】 処理水の保管



9月26日公開
※今後も随時更新

タンクと敷地利用について

- タンク増設の変遷
- タンクの建設計画

敷地利用の検討について

- 使用済燃料や燃料デブリの一時保管施設
- 処理水の貯蔵・管理
- 今後具体化を検討していく施設

タンクと敷地利用について

多核種除去設備等の処理水は、敷地内のタンクに貯蔵しています。現在、2020年12月末までに約137万m³分のタンクを建設する計画ですが、2022年夏頃には高弁になる見込みです。

廃炉事業に必要と考えられる施設（貯蔵を継続するためのタンクや使用済燃料・燃料デブリの一時保管施設など）の設置に向けて、敷地制約がある中で敷地全体の利用について、作業進捗に合わせ検討していく必要があります。

敷地利用の検討についてみる

敷地利用の検討

新たな必要と考えられる使用済燃料や燃料デブリの一時保管施設

必要な面積を相対比較

使用済燃料や燃料デブリの一時保管施設：約21,000m²

燃料デブリ一時保管施設：最大約60,000m²

計 約81,000m²

今後の廃炉事業に必要と考えられる施設は、「処理水を貯蔵するタンク」に加えて、「使用済燃料や燃料デブリの一時保管施設」と「今後具体化を検討していく施設」があります。

「使用済燃料や燃料デブリの一時保管施設」の設置には、約81,000m²の土地が必要と試算しています。引き続き、敷地全体の利用について検討していきます。

